



学校だより

福生一小ホームページが新しくなりました。
<https://fussa-1e.hs.fussa.school/>

令和6年2月1日
2月号
福生市立福生第一小学校
校長 高瀬 智子

日常に感謝



校長 高瀬 智子

令和6年となって1か月が経ちました。元日の能登半島地震には日本全体が大変驚き、避難生活をされている方は厳しい状況が続いております。日常の生活が安心して送れる日が少しでも早く来ることを願っております。いまだ、厳しい状況もありますが、避難所等になり、再開されていなかった学校も再開されてきています。

ニュースでは、学校の再開にあたって、子どもたちのコメントが報道されていました。小学生は「早く友達に会いたい。」中学生は「友達に会えるのが楽しみ。」、また、高校3年生は、「卒業までの残りの期間学校に行けることを1日1日かみしめて、過ごしたい。」と再会を待ち望む声や再開されたことの喜びの声が多く聞かれました。学校がいかに子どもたちにとって大切な場であるかを改めて感じるとともに、現在、本校では、日常の学びが行っていますが、その当たり前のありがたさを身に染みて感じました。学べること、友達と過ごすことができることのよさを子どもたちも感じてほしいと思いました。

1月17日には、「いじめ防止サミット」がありました。各学校の代表が1名集まり、いじめに関して話し合う様子を福生市の全ての小学校・中学校の児童・生徒が同時に動画でその様子を視聴し、その後、各学級でいじめについて話し合いました。今回は、いじめてしまった側の気持ちについて考えました。「ちょっと、からかっただけ」「ちょっと、遊びのつもりで」ということも、された側にとっては傷つくことであり、軽い気持ちでということは理由になりません。今回のサミットを通して、いじめについてみんなで考えることにより、子どもたちがいじめについて自分事として考え、子どもたちの心の中に、自身の言動を考え、みんなが互いに気持ちよく過ごせる場を作っていく意識が高まっていくことを願っています。



(いじめ防止サミット 動画の視聴)



(道徳授業地区公開講座 講演会)



(講演会 講師の問いに答える6年生)

さて、先日の道徳授業地区公開講座・学校公開は、多くの方に御来校いただき、誠にありがとうございました。道徳や教科の授業を通して、子どもたちの学びの様子を御覧いただけたかと思います。道徳授業地区公開講座は、学校と保護者・地域と一緒に考え子どもたちに豊かな心を育むことを目指しています。学校では、道徳の授業を要として、日常の学校生活全体を通して道徳性を養い、実践していくことができるよう道徳教育に取り組んでいます。

今年度も、明星大学 特任教授の樋口先生に、これから中学校に進む6年生に向けて、夢や希望に対する考え方、AIの発達と人間だからこそ感じることができると、仲間を大切にすることなど、前向きに進んでいくためのお話をいただきました。6年生は耳を傾けしっかりと話を聞いていました。感想では、「友達にかける言葉に気を付けていこう。」「AIは人間のように感情や体験がないので、人間のすばらしさをあらためて知ることができた。」など、お話から真剣に考え、自分の考えをしっかりと持っていることが伝わってきました。これからの自分の在り方の参考としてほしいと思います。

今年度もあと2か月となりました。1・2学期に積み重ねてきたことが、今、3学期の成長へとつながっています。子どもたちには、頑張っている自分に自信をもち、新しい学年になることへの期待をもって過ごしてほしいと思います。